

## 「してやる」形で表される意志表現について\*

成知炫\*\*

## 〈 Abstract 〉

## A Study of “te-yaru” expressing the strong will of the speaker

This paper examined the meaning and usage of "te-yaru" taking the form of "suru", which expresses the intention of an agent. The traditional research of "te-yaru" has focused on elucidating the difference with usage which does not express its benefits. However, this paper analyses the use of "te-yaru" in the data in which speakers assert their intention, including all cases of benefits and non-benefits. As a result, the meaning and usage of "te-yaru" is summarized into the following three types: the benefit-providing type, the damage-providing type, and the self-revealing type. Further, we showed the lexical-grammatical features and contextual features of "te-yaru".

In addition, it was revealed that the benefit-providing type is the most commonly used type at 58.3%, and the damage-providing type is the second largest at 30.8%. The self-revealing type, which corresponds to "strong intention" in the previous research, was found to stay at 10.9% of the total. Considering that the main verb "yaru" is a form of action for another person, the result of the damage-providing type, and the self-revealing type occupying 40% of the population is noteworthy.

This study suggested the possibility of a contrasting research with the auxiliary verb "te-miseru", which has a meaning of strong will, and a comparative study with Korean volitional expressions of auxiliary verbs which are derived from supplementary verbs.

Field : Syntax

Keywords : Te-yaru, Lexical factors, Syntactic factors, Contextual factors, Volitional expression

## 1.はじめに

「してやる」は、「してくれる」「してもらう」とともに授受動詞の代表形式であり、恩恵性が注目されてきた。例えば、(1)は与え手である「父」が受け手である「子ども」に対して恩恵を施すと念を押すことを表している。一方、「してやる」には恩恵を表さない意味・用法もある。例えば(2)は、動作主の行動が誰かに向かっている恩恵の動作ではなく、また(3)は恩恵どころか非恩恵の意味を表している。

- (1) (父が子供に) 明日は必ず起こしてやるから!
- (2) いつか世界を歩いてやる!
- (3) この野郎、殺してやる!

上のように、「してやる」については「恩恵」を表すものとそうでないものに大きく分けられ、この

\* 이 논문은 2015년 정부(교육과학기술부)의 재원으로 한국연구재단의 지원을 받아 수행된 연구임(NRF-2015S1A5B5A07042344)

\*\* 韓国放送通信大學校 非常勤講師, 日本語學

うち後者は強い意志を表す用法、不利益を表す用法などと言われている。

ところが、恩恵か非恩恵かという恩恵性の他に、動作主が自分の意志を言い切るところに焦点を当てると、「強い意志」と言われている (2) のみならず、(3) のような不利益を表すもの、また、(1) のような恩恵的なものも動作主の強い意志を表していることが分かる。

話者である主語が動作主として自分の意志を言い切ることを表す表現に「してやる」形の他に「する」形、「しよう」形などがあるが、森山 (2000) で述べられているように、「この形式 (意志動詞の無標のスル形、成注) は、基本的には独り言では使えず、その場で決めたことを相手に告知する意味に限られるという制約がある (森山同:69)。それゆえ、「する」形は、(4) のように誰もいない部屋で独り言としては言えないが、(5) のようにその場で決めたこととして言うことはできる。つまり、意志を表す「する」形では (2) と (3) のようには使われないのである。しかし「してやる」は (6)、(7) のように独り言として使われることができる。また、「しよう」形は、聞き手の有無によって、聞き手がいる時は勧誘の意味になり、ない時は独白の意味になる点で異なる。

(4) (だれもない部屋で) \*僕は帰る。

【森山 (2000:69) の (281) の例】

(5) (太郎も行く、と聞いて) じゃあ、私も行く。(話の現場で決心したという意味)

【森山 (2000:69) の (282) の例】

(6) 栄二は答えなかった。青木は待った。「あの店には火をつけてやる」と栄二は喉声で独り言を云った。「三人の火消し人足は殺し (後略)」(さぶ)

(7) あいつが自分の欲望に耐えている間、僕も耐えてあいつを見張ってやる、と僕は考え、看護婦が消灯して出て行くと、柔かい粘土層へ穴をあけるように、自分の睡りの中へもぐりこんでいった。(他人の足)

このように、動作主の意志を表す「してやる」形は、「する」形、「しよう」形とは違う表し方をしているにもかかわらず、注目されなかったのが実情である。そこで本稿では、「してやる」形を取っており、意志表現として使われているものを対象に考察し、そこに現れている「してやる」の意味・用法および語彙・文法的特徴、文脈的特徴を明らかにする。

## 2. 先行研究の検討

従来の研究において「してやる」の「強い意志」の用法は、豊田 (1974)、黄順化 (2004)、山田 (2001、2004)、金殿模 (2003)、王燕 (2008)、部田 (2011) などに授受関係を表さない「してやる」のなかで扱われている。

まず、豊田 (1974) は、恩恵を表さない補助動詞「やる」には、「意志を表す用法」や「方向を表す用法」など複数存在することを指摘している。またそのうち前者は、「自己主張・自己の意志の顕示」という意味があるとし、動詞との関わりを述べている。すなわち、自動詞と無意志動詞の場合、対象 (相手) に対する働きかけではなく、自己の意志・決意を表すとしている。

黄順化 (1996) は、日本語のシテヤリ態の用法を「利益・恩恵」「アイロニ的な用法」「強い意志」の3つに分け、「アイロニ的な用法」と「強い意志」との違いについて、もう一步追求した研究が必

要のように思われる (p.89)」と指摘した。さらに黄順花 (2004) では、恩恵を表さない「してやる」を、寄与態の副次的な用法として「アイロニー的な用法」と「強い意志」の二つに分類し、その違いについて、前者が寄与態の構造的なタイプに準拠し、ターゲットが内部構造に存在するのに対し、後者は話し手が積極的に実行する動作を表す用法であり、ターゲットが不明確であるとしている。

山田 (2001) は、先行研究での恩恵の相手を受影者として具体化かつ一般化し、非恩恵のベネファクティブにおいて受影者が存在するか否かで受影者存在型と受影者非存在型に分けている。受影者存在型のテヤルには、テンスの分化と、「してあげる」のような待遇変異形があり、また、主語の人称制限がないのに対し、受影者非存在型のテヤルには、テンスの分化、待遇変異形もなく、また、主語の人称は一人称のみだという指摘をしている。ついで山田 (2004) では、豊田 (1974) での動詞に関する考察を発展させ、仁田 (1990) の自己制御性を参考に、どのような自己制御性を持つ動詞が、事態として含まれ得るかを検証している。

金殷模 (2003) は、先行研究で非恩恵とされた「～てやる」の用法を、不利益を表す用法、強い意志を表す用法、条件節で使われる用法の3つに分類し、不利益を表す「～てやる」は受け手が直接受け手になり、強い意志を表す「～てやる」は受け手が間接受け手になるとしている。ただし、「強い意志」の用法までも一貫して受け手という観念を追求するところには無理な点があると思われる。

王燕 (2008) は、テヤルを基本的な意味のものと派生的なものに分け、後者をさらに、受益者からの感謝を期待しないテヤル、強い意志の表明として機能するテヤル、アイロニー的なテヤルに分けている。このうち、強い意志の表明のテヤルには、受益者がなく、三人称に何の影響も与えないとし、アイロニー的なテヤルは、マイナス意味の動詞の影響もあるが、文脈での役割は話し手の表現意図によって異なるとした。

部田 (2011) は、ヤルとテヤルの連続性に注目し、その意味素性の分析から恩恵的なテヤルと非恩恵的なテヤルを連続的に捉えている。すなわち、テヤルについて意図的な〈働きかけ〉と〈変化〉を基本義と把握し、その働きかけが好意的であれば「恩恵表現」や「自己顕示表現」に、悪意の意図であれば「非恩恵 (マイナス利益)」表現になるとしている。

以上、従来の「強い意志」に関する研究では、同じく授受関係を表さない、不利益を表す用法との異なる解明に焦点が当てられており、「してやる」形で表される意志表現の意味・用法については述べられていない。また、意志表現として使われている「してやる」の語彙的、構文的、文脈的特徴について部分的な言及はあるものの、総合的な分析は為されていない。本稿では、利益、不利益を問わず恩恵性を考慮に入れ、意志表現として使われている「してやる」形について、その意味・用法および語彙・文法的特徴、文脈的特徴を明らかにする。

### 3. 研究方法

本稿では、「してやる」形を取っており、意志表現として使われているものを対象にして、その意味・用法を考察する。先行研究でいう「強い意志」のほか、「アイロニー的な用法」や「不利益な用法」の一部<sup>1)</sup>、および恩恵的な用法の一部が含まれる。本稿で「強い意志」とは、相手に、または、自分自身

1) 従来の研究では、「この野郎、殺してやる！」も「腹がたつたので怒鳴りつけてやった。」も不利益を表す

に向かって念を押すことをいう。

「してやる」の研究においては、影響を与える相手の有無と、相手への影響、すなわち相手にとって利益であるか不利益であるかが重要である。「してやる」形で表される意志表現においても、相手の有無、および、利益・不利益という相手への影響に注目しつつ考察を行う。具体的には、「してやる」形で表される意志表現を、動作の相手が特定できるか否か、また、相手に及ぼす影響が恩恵的なものであるか非恩恵的なものであるかという構文・意味的特徴を根拠に次のようにまとめる。すなわち、動作を受ける相手が存在し、その相手に利益を与えるものを「授恵型」と呼び、相手に不利益を与えるものを「被害型」と呼ぶ。また、動作の相手が特定できず、利益も不利益も与えることがなく、自分自身に念を押すものを「自己顕示型<sup>2)</sup>」と呼び、具体的にどのようなものなのかを実例を取り上げ、それぞれの構文的特徴、語彙的特徴、文脈的特徴について考察する。

まず、構文的特徴については、「してやる」がとっている「XがYニ [Xが…V] テヤル (Xは動作主、Yは動作の相手)」という構文において、Yが特定できるか否か、特定できる場合はどのようなもので示されているかを調べる。

語彙的特徴については、「してやる」の恩恵性を考えると恩恵的な「してやる」には相手に好意的なことを施す意味の動詞が使われることが考えられる。また逆に、非恩恵的な「してやる」には被害を与えるような意味の動詞が使われることが考えられるが、実際にどうであるかを実例を通して検証する。具体的には、「してやる」に使われている動詞を語彙的特徴によって次のように分類する。「助ける、教える」のように相手に(または自分自身に)何か利益を与えるという意味を持っている動詞をプラス意味の動詞とし、「殺す、邪魔する」のように不利益を与える意味を持っている動詞をマイナス意味の動詞とする。また、プラスの意味もマイナスの意味も表さないものは中立的な意味の動詞とし、それぞれ実際にどのような動詞が使われているかを考察する。

文脈的特徴については、「してやる」の前後の文脈の影響が指摘されてきたが(王燕2008など)、具体的に何が、どのように影響しているかは明らかになっていない。本稿では、動作主が相手にその動作を施すようになる動機、理由、前提などが「してやる」の前後にどのような形で示されているかを考察する。例えば、動作の動機、理由、前提などが(8)のように「したら」「すれば」を含む条件文で示されているもの、(9)のように「しろ」「してください」のような命令文で示されているものを取り出して示す。また、(10)のように「ので」「から」「動詞の連用形」など理由を表す文で示されているもの、(11)から(13)の「だろう」「しよう」「したい」のようにそれぞれ推測文、意志・勧誘文、願望文などで示されているものを取り出して示す。最後に、(14)のように形として何も示されておらず、文脈のなかで状況として把握できるものについても「非明示」としてまとめる。

(8) 「四日間がすぎたら移してやる。」(冬の旅)【条件】

(9) 「待っている、今持って来てやる」(孤高の人)【命令】

(10) きょうは給料日だから俺が奢ってやる、(後略)(錦繡)【理由】

(11) 「おれたちでかくまってやるさ、ほかにやり方がないだろう」(戦いの今日)【推測】

用法である。もちろん、不利益を表すという意味的な面では妥当であるが、前者では動作主の相手に対する念押しが強く出されているのに対し、後者では動作主の怒りが表れているのみである。本稿では、「してやる」形を取っているものだけを対象とする。

2) 「自己顕示」という用語は、自己の意志の顕示(豊田1974:87)、自己顕示的な表現(部田2011:24)を参考にしている。

- (12) 「おいしいものいっぱい食べようね。今日は私がおごってやるよ。」(作例) 【意志・勧誘】
- (13) 「あの子にはぜったい医師をやらせたいな。そのために何でも聞いてやる。」(作例) 【願望】
- (14) 「アシュレイに散髪してやりたいんだけど、頭のかたちを変えたいからね」と女はいった。  
「道具を工面できないかしら」「探して来てやる」と(中略)かれはいった。(楡家の人びと) 【非明示】

本稿で扱う用例は、小説、随筆、新聞という多様なジャンルを含む『CD-ROM版新潮文庫の100冊』の戦後60作品から収集したものである。「する」形の「してやる」(416例)から「強い意志」を表すもの(211例)を対象とする<sup>3)</sup>。

## 4. 考察

ここでは、「してやる」形をとっているもののうち、動作主の意志を表すものを授恵型、授害型、自己顕示型の3つに分けて、それぞれの語彙的特徴、構文的特徴、文脈的特徴について考察する。以下では、4.1から4.3にかけて授恵型、授害型、自己顕示型の順に述べていく。

### 4.1 授恵型

授恵型は、「してやる」形で表される意志表現のうち、動作の相手が特定でき、その相手に利益を与えると切り切るものをいう。先行研究において恩恵を表す「してやる」は、「した」形で授受関係を表すものに注目しており、「する」形で意志を表す用法は積極的に取り上げられていない。しかし、本稿の調査で「してやる」形の意志表現のなかで最も多くを占めており(123例、58.3%)、注目すべき用法であると思われる。以下では、このような授恵型の構文的特徴、語彙的特徴、文脈的特徴について順に述べる。

#### 4.1.1 構文的特徴

授恵型の場合、恩恵という影響を受ける相手が特定できる。例えば、例(15)では利益を受ける相手が「三人」であり、それが「に」格で示されている。他にも「お前に」「君たちに」などが現れているが、多くの場合文脈から推測でき、実際には省略されている。また、「に」格以外に(16)のように「ために」などで示されていることもある。授恵型の場合、相手が示されているのは、123例のうち18例であり、授恵型の14.6%にとどまっている。

- (15) 「僕が負けたら君たち三人に金時計を一つずつ買ってやる。そのかわり君たちが負けたら、僕に金時計を買え」(山本五十六)
- (16) 彼の正義感はずだんだん高じて来て、明日は私のために、ぜひとも老師に対して釈明してやると息巻くまでになった。(金閣寺)

<sup>3)</sup> 「しよう」「したい」形の「してやろう」「してやりたい」で表される意志表現については今後の課題にしたい。

## 4.1.2 語彙的特徴

授恵型の場合、「してやる」に使われる動詞は「助ける、教える」のように相手に何か利益を与えるものが考えられる。本稿で実際に用例を調査した結果、授恵型の「してやる」には、「助ける、ごちそうする、教える、おごる、世話をする、許す、奢る、面倒みる、譲る、勘弁する、手伝う」のように相手にプラスの影響を与える動詞が多く現れていることが分かった。プラス意味の動詞は全体の24例のうち23例（プラス意味の動詞の95.8%）がこの類型に使われている<sup>4)</sup>。

- (17) 「癒るのかね、軍医どの。一体癒るものなのかね？」城木は、内地へ戻るまでに必ず癒してやると受けあつた。(楡家の人びと)
- (18) 「今日は許してやる。」(花埋み)

しかし、次の「離婚する、負ける」のようにマイナスの意味が使われているのに、相手に利益を与える授恵型のものも現れている。それらは、次の例のように、その動作を相手から求められ、それに応じる形でその動作を行うと言い切るものであった。

- (19) 何年かのちに登美子から子供の認知を請求されても冷淡に拒否し、そのために康子が腹を立てて離婚を要求したら、さっさと離婚してやる。(青春の蹉跎)
- (20) 「ありません？……ありませんですむと思つているのか！……こうなりや、こっちだって、命がけだからな……くそつたれめ！……早く、どうにか、してくれよ！……たのむ……たのむと、言つてゐるんだぞ！」(中略)「よし、負けた！……仕方がない、負けてやるよ……」いわしの干物じゃあるまいし、こんな殺され方は、まっぴらだ。(砂の女)

また、次のように、プラスの意味でもマイナスの意味でもない中立的な意味の動詞もあり、それが最も多い。具体的には、「挑戦させる、食わせる (21)、食べさせる、聞かせる、留学させる、洋行させる、思う通りのことをさせる」のように相手が好きなようにさせることを表す使役動詞、「来る、持つて来る (22)、帰つて来る、探して来る、連れてくる、行く、連れていく、むかえにいく、もつていく」のように、相手に好都合の状態を方向を移動することを表す動詞、「作る、書く、話す (23)」のように物理的、抽象的にあることを作り出すことを表す意味の動詞などである。また、その他に「買う」「移す」「変える」「解く」「持つ」などが現れている。

- (21) 「よし、めしは食わせてやる。めしをくつたらすぐ俺と警察に行くんだ」そう言うなり父は店に出て行つた。(冬の旅)
- (22) 賄夫は一円札をポケットにねじこむと、「待っている、今持つて来てやる」加藤は食堂の隅でがつがつ食べた。(孤高の人)
- (23) 「考えることは無いよ。お母さんにはおれから話してやる」(青春の蹉跎)

4) プラス意味の動詞で、授恵型を表さないものは、「女医になり、女性の患者の屈辱を救つてやる、という所期の目的そのものはすでに達成された。(花埋み)」のような例である。この例は相手が特定できないものとして自己顕示型に分類している。

### 4.1.3 文脈的特徴

相手に利益を与える授恵型の「してやる」の前や後の文脈には、動作主が相手に利益となる動作を施すと言い切る動機や前提、理由などが様々な形で現れている。授恵型の場合、条件文で示されているものが最も多く(30.1%)、非明示のもの(29.3%)よりも多い。以下では、形として示されているもののうち用例数の多いものから条件、命令、理由、推測、意志、願望の順に述べ、最後に非明示のものを述べる。

#### 【ア】条件

動作主が相手にある条件を提案し、それに相応する褒賞としてある動作をすと言い切ることが条件文で示されている。条件文で示されているのは37例であり、授恵型の30.1%を占めて、最も多い。次の(24)では、子供に「法科へ入」ることを条件としてを持ちかけ、それに相応する褒美として「どんな我儘でもきいてあげることを示している。(25)では、自分に投資したら、相手に好都合のこととして「(お金を)十倍にして持って帰る」と言い切っている。

- (24) それでね、彼が初めて、《それは約束が違います。法科へ入りさえすれば、どんな我儘でもきいてやるって言ったじゃありませんか》って言ったらいいの。(太郎物語・高校編)
- (25) 新橋の女性たちにも、やはり、金を預けたら十倍にして持って帰ってやると言っている。(山本五十六)

#### 【イ】命令

動作主が相手にある動作を要求し、それが充足したら相手のためになるような動作をすと言い切ることが命令文で現れている。命令文で示されているのは24例であり、授恵型の19.5%を占めて、形のあるものの中では二番目に多い。次の(26)では「毎土曜の二時にここへ来い」のように肯定命令文が、(27)では「俺の前に現われるな」という否定命令文が現れ、それらの命令の内容が充足したら「洗濯する」「助ける」動作をすと言い切っている。

- (26) 「(前略)これから、一週間に一回ずつ、頭の洗濯をしてやる。毎土曜の二時にここへ来い」(あすなる物語)
- (27) 「殺したいところが助けてやる。以後俺の前に現われるな、下衆野郎！」(冬の旅)

#### 【ウ】理由

動作主が相手のためになるような動作を行うと言い切る理由、根拠などが理由文で示されているのは20例であり、授恵型の16.3%を占めている。形のあるものの中では三番目に多い。次の(28)では「から」の文で示されており、(29)では「どうもきがかりで」と動詞の連用形で理由が示されている。(30)では「おまえは偉い」と形としては何もないが、「から」「ので」が省略されていると考えられ、ここに入れる。

- (28) 「こうなったら、しょうがねえや。おい、驢馬。手伝ってやるぜ。沼では貴様に手伝ってもらったからな。」(驢馬)
- (29) 「東中野でおいて直ぐのところだ。あとで地図を書いてやるよ。……どうもきがかりでな」

(30) 「辰次、おまえは僕い。なんでも買ってやる」(楡家の人びと)

【エ】推測、意志、願望

動作主が相手に恩恵としての動作を施す前提、動機が推測文、意志文、願望文の形で「してやる」の前や後の文脈に示されている。推測文、意志文、願望文で示されているのは合わせて6例であり、授恵型の4.8%を占めて、少ない。(31)では「誰が持っても同じだろう」という推測のもとで相手に「預かっておく」ことを言い切っている。(32)ではマグロを食おうと誘い、自分が「おごる」と言い切っている。(33)では娘を「自由にさせてやりたい」という希望を示し、娘を「思う通りのことをさせてやる」と決意している。

(31) 「返してもいいが、誰が持っても同じだろう。俺が預つといてやるよ。俺はここにじっと坐りっ切りの、物持ちのいい人間だ。お前が持ってて、また濡らしちゃうといけねえ」(野火)

(32) 「おい今日は、マグロの刺身ぐらい食おうぜ、おれがおごつてやるよ」(新橋烏森口青春篇)

(33) 一度傷ついたものなら、この先もうこの娘の自由にさせてやりたい。この娘の思う通りのことをさせてやる。それしか今のかよに償う方法はなかった。(花埋み)

【オ】非明示

「してやる」の前や後に動作主の決心を導いた特定の文が形として示されているわけではないが、会話など文脈の中から動作主のそのような状況が分かるものである。用例は36例現れており、授恵型の29.3%を占めて、全体で二番目に多い。(34)では相手の誘いに応じて、今度「来る」と言い切っている。

(35) でも相手の尋ねに対して応じてあげると言い切っている。

(34) 「う、うん……。大分飲んだな。もうこれ以上飲むと帰れなくなる」「いいじゃないの、ちゃんと介抱してあげるわよ。もう一杯。—そう?じゃ、また来てね」「ああ、来てやるとも」(女社長に乾杯!)

(35) 「お話をうかがいます」「いいとも。たっぷり聞かせてやる」(女社長に乾杯!)

以上、動作主が相手に利益を施すと言いつけることを表す授恵型の語彙・文法的特徴、そして文脈的特徴について分析してきた。まず、授恵型の構文的特徴として、利益を受ける相手は想定できるが、実際には省略されることが多く「お前に」「君たちに」などで現れるのも14.6%にすぎないことを指摘した。また、語彙的特徴として、「してやる」にプラス意味の動詞の他に、マイナス意味の動詞、中立的な動詞の全ての動詞類が現れていること、特に、プラス意味の動詞は、1例を除いて全て授恵型に属することを明らかにした。さらに、文脈的特徴については、動作主が相手に利益となる動作を施す前提や条件などが条件文、命令文などで示されていることを例を挙げて述べた。そのうち、ある動作を条件として提案したり命令したりし、それに相応する褒賞としてその動作をしてあげると言いつけるものは他の類型には見られず特徴的であると指摘した。

## 4.2 授害型

授害型は、「してやる」形で表される意志表現のうち、動作の相手が特定でき、その相手に不利益を与えると警告したり、脅かすものをいう。これは先行研究でいう不利益を表す用法（金殷模2003）、アイロニー的なテヤル（黄順化1996、2004、王燕2008）に当たる。授害型は、「してやる」形の意志表現のなかで二番目に多い（65例、30.8%）。以下では、授害型の構文的特徴、語彙的特徴、文脈的特徴について順に見ていく。

### 4.2.1 構文的な特徴

授害型の「してやる」の場合、不利益を受ける相手が特定できる。この場合、相手が示されているのは、65例のうち23例であり（授害型の35.4%）、他の類型に比べて最も高い。その相手は、「お前」「君たち」のように授恵型の相手と同じ形をしているものもあるが、次の例のような「奴、ちくしょう、野郎」の他に「きさま、あいつら、てまえ、あんた、あんな男」など、相手を侮って呼ぶ名詞が多く現れている。これらは、他の授恵型、自己顕示型には現れないものとして特徴的である。

- (36) 「今度、奴に出会ったら思い切りぶっとばしてやる」（若き数学者のアメリカ）  
 (37) 「クソッ畜生め、あの飲んだくれ野郎、今度あったらぶっ殺してやる……」（若き数学者のアメリカ）

### 4.2.2 語彙的な特徴

授害型の場合、「してやる」に使われる動詞は「邪魔する」のように相手に何か不利益を与えるようなものが考えられる。本稿で実際に用例を調査した結果、授害型の65例のうち44例（授害型の67.7%）がこのようなマイナス意味の動詞であることが分かった。授害型の「してやる」には、(38)のような「殺す」の他に、「ぶっ殺す、皆殺す、ぶっとばす、なぐりつける、恥をかかせる、追い出す、邪魔する、阻止する」などがマイナス意味の動詞が使われている。相手に与える不利益は「邪魔する」「恥をかかせる」のように軽い程度のものであれば、「殺す、ぶっ殺す、ひねり殺す、たたっ殺す、皆殺す」のように命を奪うようなものも44例のうち18例（マイナス意味の動詞の40.9%）もある。

- (38) 修一郎は一瞬まぶしさで目がくらんだ。「殺してやる!」修一郎は登山ナイフを握り直すと相手が父なのか澄江なのかははっきり見定めなくて突き刺して行った。（冬の旅）

授恵型にはマイナス意味の動詞が少なからず現れていたが、授害型の場合、プラス意味の動詞は1例も現れていない。マイナス意味の動詞の他には、例(39)の「つきとめる」のようにプラスの意味も、マイナスの意味も表さない中立的な意味の動詞が現れている。

- (39) 俺はお前の名前をつきとめてやる、と教員は感情の高ぶりに震える声でいい、急に涙を両方の怒りにみちた眼からあふれさせた。（人間の羊）

## 4.2.3 文脈的な特徴

相手に不利益を与える授害型の「してやる」の前や後の文脈には、動作主が相手に不利益となる動作を施すと警告したり、脅かしたりする前提や条件などが様々な形で現れている。授害型の場合、形として現れていないものが最も多いが（授害型の44.6%）、形として示されているもののなかでは条件文で示されているものの割合が高く（授害型の24.6%）、理由文がその次に多い（授害型の20.0%）。以下では、形として示されているもののうち用例数の多いものから条件、理由、命令、推測、願望の順に述べ、最後に非明示のものを述べる。

## 【ア】条件

動作主が相手に不利益を与えると警告や脅迫する前提が条件文で示されているのは16例であり、授害型の24.6%を占めている。形として示されているもののなかでは最も多い。次の例では、「そんなことをする」「盗人の名をいわない」という動作主の気にかかることをしたら「脳天に穴をあける」「兵隊にいう」という不利益を与えると脅かしている。

- (40) 小屋の後ろに、まわりこもうとしたとたん、中から黒いものが這い出してきた。(中略) そんなことをしたら、こいつで、脳天に穴をあけてやるぞ! (砂の女)
- (41) 「お前は部落長だ、責任がある。お前が盗人の名をいわないなら、お前のことを盗人だと兵隊にいってやる。そしてお前をつかまえさせて進駐軍の憲兵にひきわたさせてやる」(不意の唾)

また、「その時が来れば (42)、半年経ったら、その日になったら」のように、相手に被害を与えようとする時期が条件文で示されている場合もある。さらに、「ここを出たら (43)、機動隊が来たら、今度会ったら、奴に会ったら」のように、被害を与える相手のところに移動したり、対面する内容が条件文で示されている場合も現れている。

- (42) (今は黙って見過してやろう、だが、その時が来れば仕返しをしてやるぞ) (孤高の人)
- (43) 「話してくれなかったな。ただ、ここを出たら女を殺してやる、とっていた」(冬の旅)

## 【イ】理由

動作主が相手に不利益を与えようとする根拠が理由文で示されているのは13例であり、授害型の20.0%を占めている。形として示されているもののなかでは二番目に多い。次の (44) では、「男関係が絶え」ないために「髪を切ってやる」と脅かされていることが現れている。(45) では「から」や「ので」が省略されていると考えられるが、あいつらが「俺を裏切った」ためにそれに対する「処置を考える」ことが示されている。

- (44) その男はなかなかの美男子であったそうだが、千代子も美しい女で男関係が絶えず、髪を切るとか硫酸をかけるとか脅かされ、色々ゴタゴタの挙句に睡眠剤を飲んで自殺をはかった。(山本五十六)
- (45) 「あいつらは俺を裏切った。処置は考えてやる」「三枝さんは?」「あいつも気に入らん。あの娘っ子にへイコラしやがって……」(女社長に乾杯!)

【ウ】 命令

動作主が相手に不利益を与える前提でその相手を自分のところに呼び出すことが命令文で示されている。そのような用例は3例であり、授害型の4.6%を占めている。次の例では「呼んでおいで!」「ここへ連れてらっしゃいよ!」と示されているように、害を与えるために相手を動作主のところへ呼んだり、来させたりするものである。

- (46) 「何ですって? 桑田ってのが何様だか知らないけどね、呼んどいで! 私がひねり殺してやる!」  
(女社長に乾杯!)
- (47) 「待てないわよ! 私を散々オモチャにしとして、無一文でここから出てけですって?パパをここへ連れてらっしゃいよ! 引っかけ傷で人相を変えてやるから!」 (女社長に乾杯!)

【エ】 推測、願望

動作主が相手に不利益な動作を施すようになる根拠、動機などが推測文、願望文で示されているのは合わせて4例であり、6.2%を占めている。

- (48) 「えっ? 旭川にですか」 「うん、ここでの職場では、あいつも勤めづらだろう。旭川に連れて行って、根性を叩きなおしてやるよ。あいつにも転任の辞令が出たよ」 (塩狩峠)
- (49) 反代々木デモに加わって機動隊とわたり合ってみたい。ポカポカとなぐりつけてやるんだ。気持ちがいいだろうなあ。もっとも、その前にむこうからなぐりかかって眼鏡でもつぶされるかな。 (二十歳の原点)

【オ】 非明示

「してやる」の前や後に動作主の決心を導いた特定の文が現れているわけではないが、文脈の中から動作主のそのような状況が分かるものである。用例は29例あり、授害型の44.6%を占めて、最も多い。

- (50) メリケンは余裕綽々とくしていた。「俺が立会人になろう」どぶいたが間をいれた。「てめえも殺らしてやる!」 (冬の旅)

以上、動作主が相手に不利益を与えると切り切ることを表す授害型の語彙・文法的特徴、そして文脈的特徴について分析してきた。まず、授害型の構文的特徴として、不利益を受ける相手が示されている割合が35.4%と最も多いことと、「あの野郎」「ちくしょう」「奴」のように相手を侮って呼ぶ名詞が多く現れていることを指摘した。また、語彙的特徴として、先行研究では、本稿の授害型に当るアイロニークなテヤルに使われている動詞として「マイナス意味の動詞 (王燕2008)」という指摘にとどまっている。本稿で実例をもとに調査した結果、「してやる」にマイナス意味の動詞が65例のうち44例 (67.7%) と多く現れていることと、「じゃまする、恥をかかせる」などが現れており、特に「殺す、ぶつ殺す」のように命を奪うようなものが多いことを明らかにした。さらに、文脈的特徴について、動作主の気にかかることをしたら不利益を与えると脅かすか、相手に被害を与える時期や場所を指定する内容が条件文、理由文などで「してやる」の前や後に示されていることを指摘した。

### 4.3 自己顕示型

自己顕示型は、動作の相手が特定できず、相手に利益も不利益も与えることなく、自分自身に念を押すものをいう。これは先行研究で「強い意志」とされているものであり、動作を行う相手が特定できないものである。自己顕示型は、「してやる」形の意志表現のなかで最も少ない(23例、10.9%)。以下では、自己顕示型の構文的特徴、語彙的特徴、文脈的特徴について見ていく。

#### 4.3.1 構文的な特徴

自己顕示型の「してやる」の場合、利益や不利益など何らかの影響を与える相手が特定できない。次の例では主人公の銀が女医者になろうとするのは誰かのためではないことが「誰にというわけでもない」と明示されている。このことは授影者の不特定性の証拠と言える。

- (51) 「(女医者に、成注) きつとなる。きつとなって見返してやる」誰にというわけでもない。病をうつした夫へでも、非情な医者へでも、冷やかに見る村人へでもない。(花埋み)

#### 4.3.2 語彙的な特徴

自己顕示型の場合、「してやる」に使われる動詞は、プラスの影響もマイナスの影響も与えない、中立的な意味のものが23例のうち20例(自己顕示型の87.0%)と最も多い。例えば、「恋愛する(52)、わがものにする、眠る、のぞく、歩く、喫む、踊ってみせる」などが現れている。その他に、マイナス意味の動詞(53)が2例、プラス意味の動詞(54)が1例と少なからず現れている。

- (52) 「なによ、あんな見かけ倒しの赤禪なんか。この世には男なんていくらでもいる。いいわ、もっともっと恋愛してやるから。あんな男、見返してやるから……」(楡家の人びと)
- (53) 「きつとなる。きつとなって見返してやる」誰にというわけでもない。病をうつした夫へでも、非情な医者へでも、冷やかに見る村人へでもない。(花埋み、(52)の再掲)
- (54) 女医になり、女性の患者の屈辱を救ってやる、という所期の目的そのものはすでに達成された。(花埋み)

#### 4.3.3 文脈的な特徴

相手に何の影響も与えない自己顕示型の「してやる」の前後の文脈には、動作主がその動作を行うと言い切るきっかけや条件などが様々な形で現れている。自己顕示型の場合、非明示のものが最も多く(自己顕示型の69.5%)、他の類型と比べても割合が高いことが特徴である。形として示されているものなかでは条件文で示されているものの割合が高く(自己顕示型の17.4%)、理由文がその次に多い(自己顕示型の8.7%)。以下では、形として示されているもののうち用例数の多いものから条件、理由、命令の順に述べ、最後に非明示のものを述べる。

##### 【ア】条件

動作主が動作を開始するきっかけとなる内容が条件文で示されているのは4例であり、自己顕示型の17.4%を占めている。用例数は少ないが、形として示されているものなかでは最も多い。次の(55)では「やれと言う」相手の進めが「やって見せる」きっかけとなっており、(56)では「片づ」くと

いう状況がきっかけとなって「喫」むことをすると言い切っている。

- (55) もっともそれは、「やれと言うんなら、ずいぶんやって見せてやるがなア」というようなむしろ山本的一种 childishな面のあらわれで、彼が戦争を望むようになったということではなかったであろう。(山本五十六)
- (56) 「(前略) 俺は腹が立ってしょうがないから、これが片づくまで禁煙する。そのかわり、片づいたらけつから煙が出るほど喫んでやる」と言って、英国土産の上等の葉巻なども、みんな人に頒けてしまった。(山本五十六)

#### 【イ】理由

動作主がその動作をすると言い切る理由が「から」などの形式で表れている。理由文で示されているのは2例であり、自己顕示型の8.7%を占めている。次の例(57)では、自分が「みんなをびっくりさせ」る理由として、あのときの返しであることが「から」の文で示されている。

- (57) あときは、わたしのほうがおどろかされたから、きょうはひとつ、みんなをびっくりさせてやる……。 (二十四の瞳)

#### 【ウ】命令

動作主が自身の動作をしやすくするための準備として命令文が現れている。命令文で示されているのは1例であり、自己顕示型の4.3%を占めている。

- (58) そのため、一時期探照灯は中止になったが、淵田は、「何言うとか。戦争の練習やないか。探照灯つけてくれ。俺はやってやる」と言って、(中略) やがて彼と彼の仲間とは、次第にそれに馴れて来た。(山本五十六)

#### 【エ】非明示

「してやる」の前や後に動作主の決心を導いた特定の文が現れているわけではないが、文脈の中から動作主のそのような状況が分かるものである。用例は16例現れており、自己顕示型の69.5%を占めている。

- (59) 「(前略) 僕、今日はっきりわかった。学歴でしか物を考えられない人間に、僕は人間なんてそうでないことを、何年がかりかで、一人で抵抗してちゃんと見せてやる」(太郎物語・高校編)

以上、動作主が相手に利益も不利益も与えず、自分自身に念を押すことを表す自己顕示型の語彙・文法的特徴、そして文脈的特徴について分析してきた。まず、構文的特徴として、動作の影響を受ける相手は存在しないことを述べた。また、語彙的特徴について、「してやる」に中立的な意味の動詞が多く使われ、プラス意味の動詞、マイナス意味の動詞はともに少ないことを述べた。さらに、文脈的特徴として、「してやる」の前や後に動作主の動作の動機や理由が条件文、理由文などで示されているが、形として示されていないものが三つのタイプのなかでも最も多いこと指摘した。

## 4.4 まとめ

以上、「してやる」形で表される意志表現について、4.1から4.3にかけて述べてきた。その授恵型、授害型、自己顕示型の各特徴を表にまとめると〈表1〉のようになる。

〈表1〉から、「してやる」形で表される意志表現の3つの種類のうち、授恵型が6割近くを占め、最も多いことが分かる。授害型は3割を占め、その次に多い。従来の研究で「強い意志」とされている自己顕示型は、1割強にとどまっている。

〈表1〉 「してやる」形で表される意志表現の類型別の特徴

	構文的特徴	語彙的特徴	文脈的特徴
<b>授恵型</b> (123例、 全体の 58.3%)	相手特定可 18例(授恵型の14.6%)が 明示：お前、君たち、～ のために	・中立的な意味の動詞が最も多い(96例、授恵型の78.0%)  ・プラス意味の動詞(23例、18.7%)、マイナス意味の動詞(4例、3.3%)	相手に利益を施すと言いつける動機や前提などの示し方 ：条件(37例、授恵型の30.1%)>命令(24例、19.5%)>理由(20例、16.3%)など cf.非明示(36例、29.3%)
<b>授害型</b> (65例、 全体の 30.8%)	相手特定可 23例(授害型の35.4%)が 明示：奴、畜生、野郎、 きさまなど相手を侮って いう名詞が多い	・マイナス意味の動詞が最も多い(44例、授害型の67.7%)  ・中立的な意味の動詞(21例、32.3%)、プラス意味の動詞(0例、0%)	相手に不利益を与えると警告したり、脅かしたりする前提や条件などの示し方 ：条件(16例、授害型の24.6%)>理由(13例、20.0%)>命令(3例、4.6%)など cf.非明示(29例、44.6%)
<b>自己 顕示型</b> (23例、 全体の 10.9%)	相手特定不可 ：相手を特定できない。	・中立的な意味の動詞が最も多い(20例、自己顕示型の87.0%)  ・マイナス意味の動詞(2例、8.7%)、プラス意味の動詞(1例、4.3%)	動作主がその動作を行うと言いつけるきっかけなどの示し方 ：条件(4例、自己顕示型の17.4%)>理由(2例、8.7%)>命令(1例、4.3%)など cf.非明示(16例、69.5%)

まず、各類型を構文的観点から比較すると、動作の相手が明示される頻度は授害型のほうが高い。また、現れる名詞は、「お前、君たち」の他にも「奴、畜生、野郎、きさま、あいつら」など相手を侮って呼ぶものが豊富に現れている。それに比べ、授恵型は相手が明示される頻度も授害型より低く、「お前、君たち、～のために」に限られている。自己顕示型は、相手を特定できない。

次に、語彙的観点からは授害型が特徴的である。マイナス意味の動詞が44例(授害型の67.7%)と最も多く、「恥をかかせる、追い出す、邪魔する、阻止する」の他にも「殺す、ぶつ殺す、ぶつとばす」のように命を奪うような意味を表すものが18例(マイナス意味の動詞の40.9%)と多くを占めている。それに比べ、授恵型と自己顕示型は、中立的な意味の動詞が多い。ただし、授恵型に使われている中立的な意味の動詞は、「挑戦させる、食わせる」のように相手が好きなようにさせることを表す使役動詞、「来る、もっていく」のように相手に都合の状態を移動することを表す動詞、「作る、書く」のように物理的、抽象的にあることを作り出すことを表す意味の動詞などである。また、「助ける、教える」

のようなプラス意味の動詞は、24例のうち23例（プラス意味の動詞の95.8%）が授恵型に使われているように、授恵型において最も多く現れている。これらの結果は、意志を表す「してやる」に実際にどのような動詞が使われており、それがどのように使われているかを実際の用例をもって考察した点でも意義がある。

また、文脈的観点かからは、動作主がその動作を行う動機や前提などがどのような形で示されているかを考察した。その結果、授恵型の場合、文脈のなかに明示されている割合が7割(70.7%)と最も高いことが分かった。形としては条件、命令、理由の順に多く、ある動作を条件として提案したり命令したりし、それに相応する褒賞としてその動作をしてあげると言い切る際に使われている。授恵型も5割以上(55.4%)が明示されており、動作主の気にかかることをしたら不利益を与えると脅かすか、相手に被害を与える時期や場所を指定する内容が条件文、理由文などで「してやる」の前や後に示されている。一方、自己顕示型は、動作主がその動作を行うと言い切るきっかけなどが条件文、理由文などで示されているが、7割近く(69.5%)は明示されていない。文脈的特徴に関しては、王燕(2008)などに指摘はあるが、言及にとどまっていたが、本稿で実際の用例をもって前後の形式を詳細に調べたことで、その様相が明らかになった。

## 5. おわりに

本稿では、利益、不利益を問わず恩恵性を考慮に入れ、「してやる」形で表される意志表現を対象に考察し、「授恵型」「授害型」「自己顕示型」という意味・用法として使われていることと、それぞれの語彙・文法的特徴、文脈的特徴を明らかにした。

「してやる」形で表される意志表現について従来の研究では、強い意志を表す「してやる」という非恩恵的な用法のみが注目され、不利益の用法との違いに焦点が当てられていた。本稿で「してやる」形で表される意志表現を全体として捉えることで、「してやる」形の意志表現は、相手に利益となる動作を施すと言い切る「授恵型」が6割弱と最も多いことが分かった。「してやる」が他人のためにある動作を行うことを表す形式であることに照らして見ると、相手に害を与えると言い切る「授害型」が3割を占め、相手に何の影響も与えずに自分自身に念を押すことを表す「自己顕示型」が1割を占めているという結果は注目に値する。

今回は「してやる」形の意志表現について調べたが、今後、同じく「強い意志」を表す補助動詞と言われている「してみせる」との比較、また、授受関係を表す補助動詞由来の意志表現を持つ韓国語表現との対照研究を通して意志表現の実態を探っていきたい。

### 【参考文献】

- 金殷模(2003)「いわゆる非恩恵の「～てやる」における受け手の再検討」『言語科学論集』7 東北大学文学部 日本語学科 pp.23-34
- 宋恵仙(2005)「やりもらいからモダリティ形式への派生—「～てやる／てくれる」から派生したモダリティ表現を中心に—」『일본학연구』17 단국대학교 일본연구소 pp.461-479

- 최숙이(2011) 「韓国語との比較から見た「～てやる」文の意志性」 『日語日文学研究』 78(1) 韓国日語日文学会 pp.253-266
- 黄順花(1996) 「日本語のシテヤル・シテクレル—日本語と韓国語」 (対照研究からみた日本語文法) 『国文学解釈と鑑賞』 61(7) 至文堂 pp.86-93
- \_\_\_\_\_(2004) 「寄与態の副次的な用法」 『일본문화연구』 12 동아시아일본학회 pp.331-346
- \_\_\_\_\_(2008) 「寄与態の構造における相互的關係—韓国語との対照を中心に—」 『일본문화연구』 27 동아시아일본학회 pp.121-139
- 王 燕(2008) 「「～テヤル」の派生的な意味機能について」 『北陸大学紀要』 32 北陸大学 pp.193-210
- 高見健一・加藤鉦三(2003) 「受益表現の新展開(4) 「～てあげる」表現の意味」 『言語』 32(4) 大修館書店 pp.100-105
- 豊田豊子(1974) 「補助動詞「やる・くれる・もらう」について」 『日本語学校論集』 1 東京外国語大学留学生日本語教育センター pp.77-96
- 部田和美(2011) 「テヤルの意味分析—非恩恵を表すとされるテヤルを中心に—」 『言語学論叢オンライン版』 4 筑波大学一般・応用言語学研究室 pp.16-29
- 仁田義雄 (1990) 「働きかけの表現をめぐる」 佐藤喜代治編 『国語論2 文字・音韻の研究』 明治書院 pp.389-390
- 森山卓郎(2000) 「基本叙法と選択関係としてのモダリティ」 森山卓郎・仁田義雄・工藤浩 (2000) 『日本語の文法3 モダリティ』 岩波書店 pp.3-78
- 山田敏弘(1996) 「授受表現に関する誤用の分析 : 可能と意志性をめぐる」 『龍谷大学国際センター研究年報』 5 龍谷大学国際センター pp.65-78
- \_\_\_\_\_(2001) 「日本語におけるベネファクティブの記述的研究 (6)非恩恵型 ベネファクティブ」 『日本語学』 20(4) 明治書院 pp.90-100
- \_\_\_\_\_(2004) 『日本語のベネファクティブ—「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法—』 明治書院 pp.187-208
- \_\_\_\_\_(2011) 「類型論的に見た日本語の「やりもらい」表現」 『日本語学』 30(11) 明治書院 pp.4-14

## 〈요지〉

## 「してやる」가 나타내는 의지표현에 관하여

본고에서는 「してやる」가 나타내는 의지표현에 관한 의미·용법을 고찰하였다. 「してやる」의 선행연구에서는 강한 의지를 나타내는 용법에 대한 지적은 있었으나, 비은혜(非恩惠) 용법의 틀 안에서 불이익을 나타내는 용법과의 차이를 해명하는 데에 초점이 맞추어져 있었다. 그러나 본고에서 은혜, 비은혜를 모두 포함하여 「してやる」가 동작주 자신의 의지를 단언하는 용례를 대상으로 분석한 결과, 「してやる」가 나타내는 의지표현은 수혜형(授惠型), 수해형(授害型), 자기현시형(自己顕示型)이라는 의미·용법으로 쓰인다는 점과, 각 의미·용법의 어휘·문법적인 특징, 문맥적인 특징을 밝혔다.

또한, 「してやる」가 나타내는 의지표현의 실제 사용에 있어 동작주가 상대에게 이익을 주겠다고 단언하는 수혜형이 58.3%로 가장 많이 나타나며, 동작주가 상대에게 불이익을 주겠다고 단언하는 수해형이 30.8%를 나타내 두 번째로 많이 사용되고 있음을 밝혔다. 그에 비해, 선행연구의 강한 의지를 나타내는 용법에 해당하는 자기현시형은 전체의 10.9%에 머무르는 것으로 나타났다. 「してやる」가 다른 사람을 위해서 어떤 동작을 행하는 형식인 점을 고려할 때, 수해형과 자기현시형이 40% 이상을 차지하는 결과는 주목할 만하다.

본 연구를 통해서 마찬가지로 강한 의지를 나타내는 용법을 가진 보조동사인 「してみせる」와의 비교연구 및 수주관계를 나타내는 보조동사에서 유래한 한국어 보조동사와의 대조연구의 가능성을 시사했다.

논문분야 : 통사론

키워드 : 「してやる」, 어휘적 특징, 구문적 특징, 문맥적 특징, 의지표현

## ■ 성지현 (成知炫)

한국방송통신대학교 강사

omohide@hanmail.net

- 投稿日 : 2017년 12월 31일
- 審査開始 : 2018년 1월 15일
- 審査完了 : 2018년 2월 12일
- 掲載確定 : 2018년 2월 23일